

## 監査公表第 3 号

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 199 条第 9 項の規定に基づき、工事技術監査の結果を下記のとおり公表する。

平成 28 年（2016 年）4 月 18 日

湖南省監査委員 渡 邊 悦 夫  
同 望 月 卓

### 第 1 監査の種類

外部技術監査に伴う工事監査

### 第 2 監査の対象

夏見会館改築工事（市民環境部人権擁護課）

### 第 3 監査の期間

平成 28 年 2 月 10 日

### 第 4 監査の方法

この監査は、平成 27 年度建築物請負工事から 1 件を抽出し、設計、施工及び監理等が適切かつ効率的に行われているかについて、公益社団法人大阪技術振興協会技術士及び監査委員が関係書類等の審査、関係職員からの事情聴取及び現地踏査を行った。

### 第 5 対象工事の概要

夏見会館改築工事

工事技術調査結果報告書のとおり（「2 工事概要」参照）

### 第 6 監査の結果

#### 1. 監査委員による監査

当該工事については、1 月の定期監査にて契約、伝票、執行伺書などの証拠書類について監査し、適正に処理がされていることを確認したが、今回建設、電気および機械設備工事について外部技術士による工事監査を行った。

技術的な調査結果は別添報告書のとおりであり、指摘事項等は今後の工事施工への参考にされたい。

尚、監査委員としては特に次の点に留意して適正な業務対応が行われるよう望む。

- ① 今回の対象施設については事業目的、計画内容など概ね妥当であると判断するが、計画予算や施設規模など、新規の施設建設についてはこれまでの事例や他案件とも十分な比較検討を行い類似施設などとの統廃合や効率的な利活用を図られたい。
- ② 工事技術調査結果報告書に記載されている各工種への提言や助言を真摯に受け止め、また、指摘された確認事項や細部の是正箇所については早急に適切な対応をされたい。

## 2. 技術士による工事技術調査

別添「工事技術調査結果報告書」のとおり

<p style="text-align: center;">湖 南 市</p> <p style="text-align: center;">平成 27 年度工事監査 工事技術調査結果報告書</p> <p style="text-align: center;">平成 28 年 2 月 25 日</p> <p style="text-align: center;">公益社団法人 大阪技術振興協会 技術士(建設部門・総合技術監理部門) 一級建築士、構造設計一級建築士、 一級建築施工管理技士 新谷 晃崇</p>
--

調査実施日：平成 28 年 2 月 10 日(水)

調査場所：夏見会館改築工事現場事務所及び当該工事現場

監査執行者： 代表監査委員 渡邊 悦夫  
監査委員 望月 卓  
会計管理者・(事) 出納局長  
堀田 繁樹

調査立会者： 監査委員事務局 局長 前川 秀明  
主査 大西 佳子

調査対象工事：夏見会館改築工事

工事担当課：市民環境部 人権擁護課  
課長補佐 青木 浩司  
主幹 谷口 安彦

【調査結果報告】

書類審査

1. 工事内容説明者：市民環境部 人権擁護課 課長補佐 青木 浩司  
主幹 谷口 安彦  
株式会社 日匠設計（設計、工事監理業務受託者）  
取締役次長 澤田 耕一

2. 工事概要

- 1) 工事場所 湖南省夏見 1505 番地 1
- 2) 工事概要
- ・老朽化した隣保館施設の既存「夏見会館」を解体撤去し、新「夏見会館」を改築することに伴う全般の建築工事一式・屋外付帯工事
  - 本館棟 鉄骨造平屋建て 448.50 m<sup>2</sup>、駐輪場 19.46 m<sup>2</sup> 24 台分、倉庫 7.98 m<sup>2</sup>、太陽光発電設備 5kwh
  - ・上記建築工事に伴う機械設備工事（給排水、衛生、換気、空調）
  - ・上記建築工事に伴う電気設備工事（幹線、電灯、コンセント、通信、自火報、太陽光発電）
- 3) 入札方式 建築工事、機械設備工事、電気設備工事とも一般競争入札
- 4) 工事請負業者 ①建築工事：株式会社フジサワ建設湖南営業所  
②機械設備工事：三貴設備工業株式会社  
③電気設備工事：株式会社シガ技研
- 5) 現場代理人 ①山田吉孝  
②内潟敏邦  
③辻安正
- 6) 設計者（①②③全て） 株式会社日匠設計滋賀事務所
- 7) 監理者 同上
- 8) 工事監理業務委託業者：同上 取締役次長 澤田 耕一
- 9) 工事費
- |        |               |         |
|--------|---------------|---------|
| ① 設計金額 | 136,612,440 円 | (消費税含む) |
| 請負金額   | 116,856,000 円 | (消費税含む) |
| 請負率    | 85.54%        | (対設計価格) |
| ② 設計金額 | 26,547,480 円  | (消費税含む) |
| 請負金額   | 25,164,000 円  | (消費税含む) |
| 請負率    | 94.79%        | (対設計価格) |
| ③ 設計金額 | 31,762,800 円  | (消費税含む) |
| 請負金額   | 28,944,000 円  | (消費税含む) |
| 請負率    | 91.13%        | (対設計価格) |

- 10) 工事期間 ①平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日  
 ②平成 27 年 7 月 17 日～平成 28 年 2 月 29 日  
 ③平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 2 月 29 日
- 11) 工事進捗状況 ①計画出来高 63% 実施出来高 63.7%  
 ②計画出来高 61% 実施出来高 58.4%  
 ③計画出来高 40% 実施出来高 41.0%  
 (いずれも平成 27 年 12 月 31 日現在)
- 12) 入札年月日 ①平成 27 年 5 月 14 日  
 ②平成 27 年 7 月 9 日  
 ③平成 27 年 5 月 14 日
- 13) 契約年月日 ①平成 27 年 5 月 21 日  
 ②平成 27 年 7 月 16 日  
 ③平成 27 年 5 月 21 日
- 14) 前払金保証 ①、③のみ西日本建設業保証(株) (②は前払金なし)
- 15) 履行保証体系 ①②③とも公共工事履行保証証券による保証

[総評]

- ・ 技術調査当日の出来高は約 85%であり、本館棟の屋根外装工事、外部足場撤去が完了し内部の工事も全室内装工事が概ね完了し、機械設備工事、電気設備工事も器具取り付けが完了していた。室内各所の手直しと外部付属棟基礎コンクリート打ち込み、外構工事及び屋外埋設管工事を施工中である。午前中の書類調査では、設計契約、工事請負契約、建設計画全般、施工監理、施工管理について調査を行った結果、問題はなないと判断した。
- ・ 現場調査を午後に行ったが、外装出来映え、内部仕上げ、機械設備工事、電気設備工事の実施状況について、概ね問題はないと判断した
- ・ 天井点検口を開いて天井懐内部から隠蔽部の施工状況を点検したが問題はなかった。
- ・ 現在請負者による自主検査前の段階であり、小さな手直し事項を確認したが、引き渡しまでに是正可能と判断した。
- ・ 品質書類、記録写真についても整理されており、施工監理委託業者による立会い確認状況も必要十分になされていた。

3. 調査結果

1) 事業目的、背景等

湖南省は、滋賀県南部に位置し、北側は蒲生郡竜王町、北西に野洲市があり、市域南部には落ち着いた山地となり、その南側には西から東にかけて栗東市、甲賀市となっている。市内を東西に野洲川が流れていて、面積約 70.4k m<sup>2</sup>の市域を南北に分断している。総人口は約 54,800 人であり、名神高速道路栗東インターチェンジ及び竜王インターチェンジの中間の地域にあって、多くの上場企業の工場立地により、第二次産業従事者の率が高いという特徴がある。なお、本年 3 月には栗東湖南インターチェンジが新たに供

用され、更に交通の利便性が高くなると思われる。夏見会館は市内の旧東海道に面して、JR草津線甲西駅から東南に約500mの位置にある。老朽化した既存の夏見会館を解体撤去して新たに鉄骨造平屋建て夏見会館を建設するものであり、平成20年より計画されていたが、昨年度設計、今年度工事を行うこととし、既存施設を解体した敷地での建て替えをしている。工事は建築工事、機械設備工事、電気設備工事を分離発注としている。

予算としては、国費50%及び県費から25%の補助があるので、市単独費用は約25%で賄えるということであった。

施設概要は、屋外に10台分の駐車場、屋根付駐輪場(24台)及び物置を設け、建屋内には事務室、相談室、会議室、便所、調理室、研修室、多目的室、学習室のほか倉庫、物入れを設けたもので、瓦葺屋根上には、太陽光パネル(5kwh)を設置している。

## 2) 設計、監理全般について

建築計画、機能、構造計画、管・機械設備、電気設備の設計基本方針について、湖南省市民環境部人権擁護課 課長補佐 青木 浩司氏、主幹 谷口 安彦氏 及び施工監理委託業者の株式会社日匠設計の取締役次長 一級建築士 澤田耕一氏より説明を受けた。維持補修などのライフサイクルコスト計画に基づく仕上げ材の選定、支持層の深さに対する基礎工事の検討や、Is値、構造の耐久性など種々の検討をしたということである。

配置計画について、隣接家屋の日陰の影響について確認したが、市街化調整区域であり日陰規制の対象外であり、旧夏見会館が2階建てであったために日照は改善されるということであった。

地域対象人口2,000人に対して使用者を100人と想定して建築計画を作成している。既存夏見会館の使用状況及び地域の人口動態から推測できることである。使い方としては、子どもの学習、青少年の研修、高齢者デイサービスや地域交流事業などが主なものとなり、講演なども予定しているということであった。

基礎は地盤改良杭SSコラム工法(GBRC性能証明 第12-07号)を施工したうえで独立基礎フーチングの鉄筋コンクリート基礎であり、設計基準強度 $1000\text{kN/m}^2$ のソイルセメントコラムに対する杭基礎であるが上部構造は鉄骨平屋建てであり、積載荷重も大きくないので、十分であると判断した。

機械設備工事での受水計画について質問したところ、水栓の数からは市水から30mmで受水する必要性が認められるが、使用率を考慮し20mmとしていた。電気設備工事での想定使用電力量についての質問をしたが、後述の理由により妥当と思われる。換気は24時間換気としているということであった。

電気設備について、面積当たりの電力量が $92\text{VA/m}^2$ であり少し多いので質問したところ、調理室がオール電化であり、個別に電子レンジを使用する計画であるためということであった。幹線容量について、設計容量は電灯41.4kVA、動力19.1kVAとしている。引き込みは関電柱から敷地内埋設配管により事務室盤に送電している。基本的には、電

灯、コンセント及び機械設備機器への送電であり、太陽光 5kVA も利用している。

工事監理において、建築主体工事、機械設備工事、電気設備工事ともに、工事監理委託業務を担当の株式会社日匠設計の取締役次長 一級建築士 澤田耕一氏 による立会い確認の写真が整備されていた。

鋼材ミルシート、コンクリート強度確認の書類は概ね整備されている。

仕上げ材の選定についても、汎用品、既製品をできる限り採用することにより、インシャルコストの削減及び維持補修時に過大な費用が発生しないように考慮したということである。工事中の監理状況についても、議事録、指示書、写真により確認した。

### 3) 設計図書、特記仕様書等に関して

耐震設計について質問したところ、「官庁施設の総合耐震計画基準」に示されている、重要度係数  $I_s=1.25$  として通常の建築物よりも割増が定められた数値により設計されている。ランニングコストについて、耐用年数の間で、外部塗装、設備機器の入れ替えなどがあるが、いずれも一般的な材料であり、高価な費用を必要とするものではない。

シックハウス対策について、確認申請時想定の上げ表により建築材料を確認しているほか、接着剤も F☆☆☆☆ であること確認している。換気も居室はすべて 24 時間換気とし、VOC についても測定を予定している。工事中の塗料や接着剤は全て作業当日に搬入持ち帰りを行い、残った場合でも室内ではなく屋外置場に保管している。工事中の換気も開口が多い建物であり問題はないと思われる。

特記仕様書の記載事項について、矛盾や齟齬はないと判断した。

### 4) 積算等に関して

- ①数量積算は設計者の株式会社日匠設計の取締役次長 一級建築士 澤田耕一氏が行った。
- ②積算の基準は公共工事積算基準、建築数量積算基準を参考としていた。
- ③値入れは株式会社日匠設計の取締役次長 一級建築士 澤田耕一氏が行っていた。単価は、建設物価（財団法人 建設物価調査会発行）、建設コスト情報（財団法人 建設物価調査会発行、施工単価資料（財団法人 経済調査会発行）などの出版物、業者見積に基づいて行っていた。
- ④業者見積は原則として県内、京都府、名古屋市などの業者から 3 社徴収し、最低価格に査定率をかけて採用していた。

上記の調査により、積算について問題はないと判断した。

### 5) 入札、契約関係等に関して

建築工事には 12 業者、電気設備工事には 8 業者が入札に参加し、1 回目の入札で決定している。機械設備工事には 9 業者が入札に参加し、2 回目で決定した。いずれも最低制限価格が入札後公表されている。

以下の事項について質問調査を行った。

#### ①質疑状況及び件数

質疑は、建築工事で2社から5件提出されていた。主に使用する材料についてのものであった。

②前払い金及び履行保証について

西日本建設業保証(株)で、建築工事の株式会社フジサワ建設で46,742,400円、電気設備工事の株式会社シガ技研で11,500,000円の保証がされている。

以上から入札、契約に関する問題はないと判断した。

6) 施工管理・品質管理・施工監理等に関して

①施工計画書について

工事は概ね出来上がっているが、施工計画書の作成承諾の状況について質問した。当工事では、工事監理委託者から着工時に提出すべき書類、施工計画書の一覧表が請負者に事前手交されており、原則として個別工事施工着手2週間前に承諾の後施工を開始することとしていた。良い方法であると考えた。

「内容確認」及び「承諾」手続きは、委託監督員(株式会社日匠設計の取締役次長 一級建築士 澤田耕一氏)の内容確認を得て、監督職員に提出し内容確認及び承諾を得るという手順で行うこととしており、個別施工計画書の押印を確認した。

②使用材料について

いずれも使用材料承諾が適正に確認されていた。

③実施工程表について

バーチャートによる工程表が作成され、定例会議で進捗状況や遅れの有無等が確認されていた。

④建設副産物の扱いについて

産業廃棄物処理委託個別契約を結び、電子マニフェストを使用していた。再生資源利用計画も作成、実施されていた。

⑤建設業退職金共済組合への加入について

建築工事、機械設備工事での証紙購入の領収書を確認した。電気設備工事では証紙は未購入であり、新たに購入の必要があるのか湖南省において確認するよう提言した。

⑥施工体系台帳の整備は適切であり、施工体系図は道路に面した工事看板に掲示されていたのを写真により確認した。外部工事の必要性から、看板は撤去されていたからである。

⑦工事監理・監督について

共通仕様書は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成25年版」、監理指針は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事 監理指針 平成25年版」としていた。

毎週火曜日13:30から、定例会を開催し湖南省担当者・委託監督員・各工事現場代理人が参加し、その議事録も整備され押印がされていた。

施工計画書、施工図のチェックバック、質疑回答書が記録されていた。

監理者による工事途上でのプロセスの立会い・確認の計画、記録も整備されていた。



⑧特記仕様書に記述されている個別の工種工事の管理について

2章 仮設工事

総合仮設計画書により検討をしていた。仮設電気は電灯を現場に 10 k VA、事務所に 12.5kVA を引き込み、水道は 13mm の市水道を引き込むこととされていた。建物位置、設計 G L の確認状況の立会確認記録も問題はなかった。

3章 土工事

掘削土の場外搬出はない。掘削、床付けの立会い記録写真があり、掘削工事施工計画通りに施工されていた。埋め戻しについてもサンプル確認された購入土を用いて 30cm 毎に転圧した記録写真を残しており、仕様書、施工計画書通りであることの立会い確認が為されていた。

4章 地業工事

最近の杭の事案に鑑みて、地盤改良工事での品質管理状況について質問した。ボーリングによる調査、掘削深さ、現地支持層地盤の確認、改良材の使用量と設計量 (54 トン)、混練状況など確認写真、委託監督員の立会い記録写真も整理されていた。施工後のテストピースも採取していて、4 週の材齢での改良杭体コア検査試験結果も問題なかった。

砕石敷き厚、転圧状況の写真を確認したが、問題はないと判断した。使用した再生砕石の証明書も整理されていた。

5章 鉄筋工事

鉄筋材料は鉄筋工事下請け会社による材工一式工事であるので、他工事と一緒に購入した材料を使用しているが、材料の識別、トレーサビリティが整理され、当工事で使用した材料のミルシートを個別に明示していた。

鉄筋の曲げ加工時に、曲げ内法半径、端末曲げ加工部の余長直線部の長さ確認などの原寸検査を現場での鉄筋工事着手前に行っており、よく監理されているという印象をもった。

配筋検査での是正指示の記録も残されていた。

6章 コンクリート工事

配合報告書と設計図書を照合した。生コンプラントは、JIS 工場 (適) 工場である藤森工業(株)で、運搬所要時間は 20 分ということであった。粗骨材は犬上郡多賀町四手地先産 2005 砕石、細骨材は甲賀市信楽町産砂を用いており、海砂は使用していない。骨材試験は、(一社)三重県建設資材試験センター四日市試験センターの試験証明書があり、アルカリ骨材反応も化学法により A (無害) とされていた。書類及び立会い記録写真、打ち込み状況の写真、強度試験結果なども整備されている。構造体強度推定のための現場水中養生された供試体の 4 週強度は、公的試験場である滋賀県建設技術センターで行っていた。

型枠脱型後の出来形記録も問題はなかった。

品質記録として、施工結果報告書として、打ち込み場所及び日付別の生コン試験結果や、強度記録の一覧表を作成しておくことを提言した。

#### 7章 鉄骨工事

製作は、Mグレードの龍昇工業株式会社となっており、認定書(TFBM-120366)により確認した。製作要領書、品質管理記録、製品検査記録ともに提出されており、押印がなされていた。

工場組立溶接部の第三者による超音波検査が行われており、753箇所を検査して1箇所の許容欠陥があることが記録されていた。一般に欠陥が皆無ということは無く、許容欠陥を発見するような検査が行われた記録に意味があるので、妥当であると判断した。

現場施工での建入れ精度、安全事項、アンカーボルトなどの柱脚処理、高力ボルト接合部の管理方法などの品質記録や監督員の立会い確認写真も整理されていた。

今回の技術調査では、ダイヤフラム及びND-コア工法でのSN490C材を使用していることの意味と、トルシア型高力ボルト締め付け部でのナット回転角の確認により「とも回り」がないことを確認することの必要性について説明した。なお、実施工においては、いずれも写真により確認されていた。

#### 8章 ALCパネル工事

外装材にALC版縦壁ロック工法を採用している。地震に強い工法である。目地のシール材はポリウレタン系としている。標準的な工法である。

#### 9章 防水工事

機械スペース部分にアスファルト防水があるので、水張り試験について質問した。当工事では呼び樋部を閉塞して水張りをしたということであり、防水の弱点であるドレイン周りからの漏水がないことを確認しているということであった。

#### 10章 石工事

該当なし。

#### 11章 タイル工事

外部アプローチなどの床タイルの材質について、耐凍害性かどうかを質問したところ、含水率の低いせつ器質タイルを採用しているということであった。冬季の最低気温は氷点下3℃までということであり、あまり問題はないと思われる。

#### 12章 木工事

外部の屋根げらば、広小舞、瓦工事での引っかけ棧に滋賀県産杉材、内部の造作材にはメルクシパイン積層材を使用している。いずれも一般的に使用されている木材であり、含水率、防腐・防虫処理の確認もされていた。

#### 13章 屋根及び樋工事

愛知県碧南市産三州瓦を用い、構造計算を行い、耐風性を確認している。屋根は4寸5分勾配であり瓦葺きとして雨仕舞に十分な勾配である。屋根下地にアスファルトルーフィング二重張りの上に引っ掛け棧とステンレス釘を使用した一般的なもので、谷樋部分はステンレス板厚1.0mmを使用している。

#### 14章 金属工事

内部の壁 LGS 工事で、手摺取り付け下地の鋼板を取り付けていることが記録されていた。屋外の手摺の取り付けも一般的な工法であり、特に問題はない。

#### 15章 左官工事

薄塗り工事での下地調整について、施工計画書の内容について質問したが、水分調整や塗り付け後の急激な乾燥防止など、よく監理指針と照合していた。

#### 16章 建具工事

外部に面する建具についての耐風圧性、気密性、水密性の確認はできていた。引き戸などで、指詰めがないか、メーカー標準品の採用においても考慮しているということであった。

#### 17章 カーテンウォール工事

該当なし。

#### 18章 塗装工事

VOC放散量が少ない、F☆☆☆☆の塗料が選定されていた。塗装工事での膜厚、塗装回数の確認方法について質問したところ、材料の入荷量、空き缶の確認、使用必要量の一覧を準備中ということであった。塗装回数は、写真で複数回塗装している記録があったが、下塗りと上塗りの色を変える方法で記録すると分かりやすいので、次回での採用を助言した。塗料・シンナーは建屋内には保管していない。

#### 19章 内装工事

内装材・接着剤について、VOC放散量が少ない、F☆☆☆☆が選定されている。床でのスリップ事故防止について検討されているかを質問したが、材料見本により確認しているということであった。

#### その他

解体工事について、アスベスト処理が必要なことはなかったかを質問したが、床材、一部の天井材で飛散の恐れのないレベル3のものがあり、分別処理記録が行われていた。解体工事での運搬処分の契約やマニフェストの使用も適正であった。維持管理上多額の費用が掛かる部分がないかの検討もされていた。防火区画は無い。設備、電気との工事調整も検討されていた。

#### 機械設備工事

1. 受水容量の計画について質問したところ、直圧給水であり、給水栓数により、計算の上、同時使用率も検討して、管径 20mm で市水道本管より直接給水としている。1 分間最大使用量は 42 リットルということである。

2. 施工中の満水試験、圧力試験、気密試験も系統毎に実施記録されていた。
3. 建築外構工事取り合いの調整や、建物導入部での変位吸収配管採用など種々の工夫もされていた。
4. JR 草津線が近くにあるので、迷走電流対策として、ライニング鋼管の使用を止めて耐衝撃性硬質塩化ビニル配管を埋設としている。
5. 天井内空調機のドレイン排水の最終接続は未施工であるが、稀に接続末端がモルタルなどで詰まっていて夏季の使用時に天井から漏水することがあるので、よく検査することを助言した。
6. 換気扇の吸い込み能力などの検査確認しておくことを助言した。天井内部でダクト断面積が不足していると換気能力が不足することが起こり得るからである。

#### 電気設備工事

1. 受電容量の計画について質問したところ、関西電力との契約容量は、電灯 23 KVA、動力 19 KVA であった。このほか、太陽光発電を 5 KVA 見込んでいる。
2. 接地圧について質問したところ、アース板埋設が完了しており、接地抵抗値の写真記録も残されていた。
3. 外部のスイッチ周り、ケーブル貫通部の漏水防止も所要のパテ、シールの処置をとることとしていた。
4. 停電時の対策について質問したところ、昼間は太陽光発電により対応することとし、夜間は非常照明、誘導灯による避難が可能ということであった。コミュニティセンターとして使用するうえで、発電機の準備などを検討されることも助言した。

#### 工事現場審査

説明者：書類審査時に同じ

現場調査における所見（施工状況、安全対策等）

現状の出来高は概ね 85% と思われる。屋根、外装仕上げ工事、外部足場撤去が完了し、付属建屋基礎コンクリート打ち込み完了、外部埋設管や舗装路盤調整中である。内部は天井仕上げ、器具取り付け、壁、床などの仕上げ、家具据付が終わり、電気や水道の工事も主なものは完了している。当日は可動間仕切りの化粧シート貼りを行っていた。

現場では、下記について確認した。

##### ①内部各室仕上げ

- 1) 会議室のカーテンボックスが、外部庇の構造体鉄骨の取り合いで、深さが不足なので、検討すること。
- 2) 天井点検口から隠蔽部の施工状況を調べた結果、天井懐の補強などが適正に為されていたが、屋根鉄骨の小屋ブレースのターンバックル部で一部錆止め塗

装の未成があるので是正すること。

3) 窓木製額縁、調理室天井の塗装のムラがあるのを是正すること。

4) 研修室の残響時間を確認し、講演などで明瞭に聞き取りができるかどうかを確認しておくこと。

5) 玄関ホール天井の照明、スピーカーの中心位置が、部屋の中心線に合致していないので再検討すること。

などを助言した。

#### ②外部周り

隣地との間の側溝の中心が敷地境界となっていて、境界線を基準とした建物位置決めがされていた。設備や雨水排水を放流する敷地内最終柵も既存利用であり、高さ、経路とも問題はない。

#### ③電気、水道の引き込み

当施設は、オール電化によるもので、ガス設備の該当はない。なお、この地域は都市ガスではなくプロパンガスによっている。水道の引き込み、電気引き込みも障害はない。

#### ④玄関庇について

設計図上の玄関庇の路盤からの有効高さは3.15m程度であるところ、最近の運搬車両の屋根高さが高いものが進入してきた場合に衝突損傷することがないか、使用説明時に申し送りすることを助言した。

### 講評

#### 1. 計画内容について

事業目的、計画、策定経緯などを聞き取りしたが妥当なものである。

計画予算について、これまでの事例や、他案件とも比較されることを提言した。

#### 2. 書類審査について

書類整備について、真摯に整理されていた。仕様書や監理指針との照合もよくできていた。

#### 3. 施工監理・監督について

立会い及び記録の状況も良好であり、工程の進捗状況も概ね予定通りであった。段階確認についても、工事監理委託業務の担当者による抜けのないチェック確認がされていると判断した。今後、分掛や問題点などの経験を整理して更に改善進歩されることを願うものである。

以上